



一般社団法人  
**富山県作業療法士会**  
**ニュース**

平成30年度 No.1 第127号 平成30年6月29日

発行 一般社団法人  
富山県作業療法士会  
会長 田村良子  
印刷 藤チューエツ

富山県作業療法士会ホームページ <http://toyama-ot.sakura.ne.jp>  
富山県作業療法士会会員数：638人

## 理事となって過ごした日々

一般社団法人 富山県作業療法士会 理事 田邊 はるみ  
(みしま野苑ひかり 小規模多機能型居宅介護事業所)



私が理事になって、早10年以上が過ぎました。30代の時に理事になった時は、何かよくわからないまま毎月の理事会に参加していましたが、あっという間に月日も過ぎ、50代が目の

前に段々迫ってきました。(笑)

振り返ってみれば、理事になったことで、本当にたくさんの経験をさせて頂いたと思います。県士会が社団法人になったことや、東海北陸学会では運営委員の一人として貴重な体験もできました。今年の3月にあった県学会では、菱田学会長のもと、高岡・射水・氷見地区のOTの方々と学会を盛り上げ、横のつながりができ、本当に県士会の活動は、普段できないことができるので楽しい思い出です。

私は、介護保険施設で働いていたこともあり、訪問リハビリや地域リハビリなどの担当として研修会の開催など関わることも多くありましたが、その経験で多職種の方と関わるのが非常に多く勉強になる日々でした。

OTとしての自分を高める意味でも、色々な職種の方との関わりの中で見えてきたことがたくさ

んあり、今の私の財産だと思っています。

今、私の子供の年代の方が社会に出て一緒に働くようになり、本当に年を感じるようになりました。是非若い方には、理事になってもらい(理事以外でも県士会の仕事に関わってもらい)色々な経験をして欲しいと思います。自分では出来ないことでも、役職としてできることもあるし、何より普段の仕事だけではできないことがたくさんあるので、お声がかかった時には遠慮(?)せず何でも二つ返事で引き受けてもらえば・・・と思います。

今私自身は、作業療法士としてではなく、一事業所の管理者として働いていますが、作業療法士の仕事の幅が今後は予防の観点、生活支援者としての観点でもっと今以上に必要とされ広がると思うので楽しみです。

これからの益々の県士会の発展を御祈念致します。今までありがとうございました。



## 理事を体験して

独立行政法人国立病院機構富山病院 浅生 弘美



私は、理事をするまで、県士会の運営や仕組みや理事の活動内容について、全くといっていいほど知りませんでした。そこで理事会の様子を感想と共に少し紹介してみます。

理事会はほぼ毎月あり、月曜日の19時から2時間程度会議をします。検討内容は作業療法士協会からの依頼事項、県からの要望や他職種との連携事項、県士会の運営等、ニュースに記載されている事柄です。当然仕事が終わってから、集まるので、手際の悪い私には19時に会場に着くことも至難の業でした。また検討内容によっては終了時間が22時になってしまうこともあり、家に着くと23

時になる事もありました。月曜日なので、理事会があった週は、一週間が長く感じました。理事の中には南砺、砺波、朝日、黒部、高岡、氷見等から来る方もいるので、冬は特に大変です。課題を持って帰る理事は、次の理事会まで、まとめたり、連絡したり会議に出たりします。臨床場面では気づけない視点で作業療法を見ることができ、多くの人に出会い、貴重な情報を得ることができました。ただ時間のやりくりはなかなか大変でした。

最後に、何気なく参加している研修会や気軽に読んでいる県士会ニュース、お知らせ等も、多く人に支えられていることに、少し気づいていただけると幸いです。いたらない点が多かったとは思いますが、理事や監事の仕事をさせて頂きありがとうございました。今後も県士会の活動にご理解とご協力の程よろしく願いいたします。

## 理事として思う事

あさひ総合病院 谷口 利香



私は、平成20年より理事になり、県士会員の皆さんにお伝えできる事があるとすれば、職場の環境だけに閉じこもらず、ぜひ、県士会や協会に興味を持ってほしいということ

です。理事になって一番良かった点は、協会の動向について知る事ができ、他施設のOTと話ができる関係が持てた事です。新事業を立ち上げなければならない時や、診療報酬が改定になった時など、最新の情報を知り、相談にのってもらえる先輩や仲間がいた事は、自分が仕事をするうえで、一番の力となりました。それから、皆さんにお願いしたい事は、『認定OTをめざす』ということです。

私はすごく自信がなく、人前にできることは一番苦手だったのですが、認定OTを取得する過程で、まとめたり発表したりなど経験することで、すこしづつ自信が出てきたように思えます。認定OT取得要件の一つである、事例報告をクリアするのは難しいと思われるかもしれませんが。しかし日々の患者さんをまとめ、振り返ることは、OTの本質です。何年経験を積んでも、「目の前の一人の患者さんに向き合い、目標、介入、結果について考察する」それは、自分の作業療法を振り返ることができる大切な機会です。超高齢化社会を迎え、医療、介護、保健の情勢もより変わっていくでしょう。OTとして乗り遅れないため、県士会や協会にアンテナを立てながら「自分はどんなOTになろうか」「どの点をスキルアップしていくべきなのか」考えつつ、日々の業務を行っていただきたいと思います。

## 第17回富山県作業療法学会を終えて

老人保健施設アルカディア雨晴 高林 一彦

平成30年3月4日(日)第17回作業療法学会が高周波文化ホールで行われました。今回、運営委員長という立場で参加させていただきましたが、約1年3ヶ月前より準備を開始し、非常に多くの方々にご協力を頂き、無事学会を終えることが出来ましたことを深く感謝致します。

学会は、つなげよう!「くらし・人・おもい」—地域に必要とされるOTをめざして— というテーマのもと特別講演は、日本作業療法士会理事の株式会社ライフリー代表取締役 佐藤孝臣氏にお話をいただきました。「地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割」として、実践的なお話も混じえて、介護報酬改定に伴う作業療法士の活動の場の広がりなど、私達が今何をすべきかを示唆していただきました。地域活動紹介としての認知症出前講座やTAKAOKA音頭で「まきの体操」は、実践を交えて楽しく拝聴させていただきました。全体を通して、地域に向けた学会長(菱田仁子氏:矢野神経内科医院 デイサービス

癒さあ)の熱い想いがあふれる良い学会となったのではないかと感じています。

また、演題発表は、口述9演題、ポスター13演題と多数発表して頂き、ポスター会場の方は一部人が入りきれない程、活気のあるものとなりました。お陰様で参加者総数も200名近くと当初の予想より多いものとなり、大変嬉しく思いました。

一方でよく言われる話でもありますが、県学会はある意味、演題発表の練習の場として、これを機会に東海北陸学会や全国学会に発表の舞台をどんどん移していただきたいと思えます。

最後に、私個人としても本学会を通して、同じ地区の作業療法士とより知り合える機会にもなり、非常に有意義なものとなりました。会員の皆様にも病院・施設にとどまることなく、県士会活動や地域活動に出ていく機会を沢山持っていただければ幸いです。ご協力いただきました運営他、会員の皆様には重ねてお礼申し上げます。



運営委員の皆様、ありがとうございました。

## ポスター発表を終えて

金沢医科大学 氷見市民病院 中原 崇文

この度、平成30年3月4日に高周波文化ホールで行われました第17回富山県作業療法学会でポスター発表をしました。私事ではありますが一昨年富山県士会に入会しており、それまでは他県でOTをしていました。今回の学会ではポスター発表だけで13題、口述発表で10題と沢山の演題を見ると富山県士会の活気や熱意を初めて体感することができました。今回、「運転免許の返納で生きがいを失い、訪問リハビリの介入で趣味再開に繋がった症例」の題名で発表をしました。発表前から当院のリハスタッフのサポートや症例のご家族、ケアマネージャーさんにも協力して頂き、何とか無事に発表を終えることができました。発表の抄録やスライドを作成する中で症例に対して「もっとこうすれば良かった」「こんな方法もあったのでは?」と感じることが多くありました。学会での発表や準備を通して日々の臨床を振り返

り(自己の再評価)がまだまだ足りないことと振り返りの大切さを改めて感じることができました。私自身久しぶりの発表でかなり緊張したこともありプレゼンや質疑応答はスムーズさに欠け反省点が多くありました。それでも多くの学会参加者が発表を聞き、質問してくれた事に対して感謝したいと思います。質問者とのディスカッションでより症例に対する理解が深まり、今後の臨床で生かせる貴重な意見も聞くことができた素晴らしい時間でした。

若手のOTの中には学会の発表は敷居が高いと感じる方もいると思います。実際はそうでもありません。必ず、先輩や上司は協力して導いてくれると思います。そして、発表でしか得られないものもあります。若いOTも是非、演題を持って学会に参加して頂き、富山県士会を盛り上げてほしいと思っています。

## 県学会を終えて

西能クリニック 草島 未悠

今回、「関節リウマチ患者に対する生活指導の有効性について」をテーマに、薬物療法で状態を維持した患者様の中で、疼痛・腫脹の悪化が局所に発生する問題に対して、日常生活動作上の過用・誤用の観点から生活指導にてアプローチした研究結果を発表させて頂きました。

当院のリウマチ患者様は年齢層が若く、発症したばかりで、仕事・家事・育児の真っ最中という方が多数でした。身体の変形がほとんど無く、上肢を使うと痛いけど、休んでいればそこまで痛くない、そういった患者様に「変形を助長するので使いすぎないようにしてください」「痛みが出るので手に負担のかかる使い方をしないでください」などの指導や、自助具の提案は「私は元気なのに障害者みたいだ」と受け入れが悪くなるのもおおいに予測でき、指導に難渋する事も多々ありました。

そこで、患者様と自身の一日のスケジュールを

追って確認する事により問題点が分かり、必要な関節保護動作の確認、自助具を実際に使用してみる事での問題動作減少、既存品だけでなく患者様個人に合った道具の作成により、患者様との信頼関係構築、症状軽減に至ったのでは無いかと考えられます。

今回研究と学会発表を通して、自分の日々のリハビリが数字となって現れる事で、初めて自己満足ではなく、患者様に必要な治療だった事を示す事が出来、逆に悪くなった部分は何が駄目だったのか、足りなかったものは何だったのかを再度考えさせられる機会となりました。臨床において日々の疑問を自ら追求し明らかにする事への意欲が湧いた良い経験になりました。

県学会への参加も今回初めてだったのですが、同じ県士会の中でも様々な症例や新たな治療法を実践されている方もたくさんいらっしゃり、大変勉強になりました。

# 施設紹介

## 富山西リハビリテーション病院

作業療法士 吉村 裕子

2017年11月1日に富山市婦中町、ファボレの国道を挟んで向かい側に、「富山西リハビリテーション病院」が開院しました。当院は回復期リハ病棟60床、医療療養病棟（今年度夏頃、回復期リハ病棟に転換予定）60床、短期入所生活介護（ショートステイ）20床と医療外来リハビリテーション、通所介護（デイサービス）、短時間通所リハビリテーション（デイケア）、訪問リハビリテーションを併せ持つ医療・介護の複合施設です。

当院のリハビリテーションスタッフ数は、PT22名、OT19名、ST7名、リハ助手4名、総勢52名です。今年度、新人13名が加わりました。

当院のリハ機器は、①富山県内2台目で運転免許センターと同じ検査が行える「DS7000R：運転操作能力検査用運転シミュレーター」②浴室やトイレなど「ADLユニット」③注意力、記憶力、遂行機能、見当識練習ができる「高次脳バランス」④重度な患者様でも安全に体重を免荷しての立位・歩行練習ができる「天井走行レール」や「POPO」⑤歩行時の下肢の振り出しをモーターの力でアシストする「Honda歩行アシスト」、足関節背屈を電気刺激で促す「ウォークエイド」などを導入しています。

特徴は、運転リハ外来(対象：急性期病院か

ら退院し認知症の病名のない方)、ロボットリハ外来(対象：疾患問わず下肢の振り出しがしづらい方など)や入院患者の復職・運転支援・趣味活動の再開、退院直後の訪問リハビリなどを積極的に行っています。

2018年2月に隣接して「富山西総合病院」が開院しました。2つの病院が相互に連携し、救急や手術などの急性期治療直後の早期リハから在宅復帰・社会参加を目指した回復期リハの提供、介護までをワンストップで対応します。住み慣れた地域で自分らしい生活を人生の最後まで続けることが出来るよう連続的な医療・介護・住まい・生活支援を提供していきます。

新人教育や病棟編制などでバタバタしていますが、チーム力を高め、地域の方に還元して頂けるよう頑張ります！よろしくお願い致します



### 自動車運転に関して研修会と情報交換会同日開催のご案内

○研修会 「障害老人部会」主催（午前）

テーマ：「自動車運転における現状と課題～高次脳機能障害と高齢者を中心に～」

講師：酒井英顕氏（作業療法士 富山西リハビリテーション病院）

内容：高次脳機能障害者や高齢者の自動車運転支援における現状と課題について症例を交えながらご紹介いたします。また、他関係機関との連携方法についても具体的なツールをご紹介する予定です。

日時：平成30年9月2日（日）9:30～12:30（受付開始 9:10）

会場：富山医療福祉専門学校

参加費：会員2,500円 非会員3,000円 学生500円（定員約60名）

○情報交換会（参加対象は会員のみ）「運転と作業療法委員会」主催（午後）

内容：1. 運転支援の現状と課題点に関して

2. 協会特設委員会編集テキスト「運転に関する作業療法士の基本的考え方」配布

日時：平成30年9月2日（日）13:30～15:00（受付開始 13:00）

会場：富山医療福祉専門学校

参加費：テキスト代200円

窓口・申し込み先：金沢医科大学氷見市民病院（担当 菅澤 大介）

FAX：0766-74-1901（「リハビリ 菅澤」を明記してください）

E-mail：s-daisu@kanazawa-med.ac.jp

申し込み締め切り日：平成30年8月8日（水）※午前、午後どちらか一方のみの参加も可能です。



有限会社ライフ・ハウスちむぐりさ

高崎 信弘

県士会員の皆さんこんにちは。有限会社ライフ・ハウスちむぐりさの高崎信弘です。今年度で作業療法士になり9年目になります。前回のアルペンリハビリテーション病院の宮城さんからバトンを受け、今回のコラムを担当させていただくことになりました。彼とは小・中学校の同級生で、久しぶりの連絡がコラムの依頼でした(笑)このような機会が初めてなので、何を書けばよいか不安ですが、現状についてお話ししたいと思います。

現在所属している有限会社ライフ・ハウスちむぐりさは富山市婦中町にあり、事業として福祉部と工事に分かれています。福祉部では今年度より創設された共生型サービスの通所介護(現状、基準該当のまま実施中)、障害者相談支援事業等を行っており、工事部では増改築、リフォーム等の建築、設備関係の相談・施工を行っています。私は相談支援専門員として障害福祉サービスの利用計画作成や地域生活の定着

等、生活全般の支援を行っています。

作業療法士になってから精神科の医療機関、生活や就労の支援を行う多機能型事業所、就労移行支援事業所と、恥ずかしいながら職を転々としています。同じ医療機関、事業所に長くいた経験はありませんが、その中で様々な経験をする事ができました。

今は相談員として地域で生活している障害を持った方、また入院から地域に移行する方、就労を希望している方がよりよく生きられるよう、その方にあったサービスが提供できるよう心がけています。職を転々とする中での経験が今の仕事に活かしているのも、今後はその経験を今の職場で長く活かす事が出来ればと思っています。

話しは変わりますが、皆さんの趣味、楽しみはなんですか？生活にメリハリをもつためにもとても大事な作業だと思います。私は登山やトレイルランニング、スキー等、外遊び全般が好きです。非日常的な環境で過ごす時間はいい気分転換になります。いろいろな忙しさに追われながらも、自分の楽しめる時間は作っていきたくですね。

次のバトンは「ヴィスト株式会社」の今井彩乃さんへ渡したいと思います。



介護老人保健施設 みしま野苑一穂

光地 瞳

県士会員の皆様こんにちは。私は老人保健施設 みしま野苑一穂に勤務しております、光地瞳です。作業療法士となり今年で8年目を迎えました。今年度からリレーコラムが2人体制となり、2人体制の最初のコラムを書かせていただくことになりました。今回は私が勤務している施設の紹介と行事の取り組みについてお話ししたいと思います。

医療法人社団 楽山会は私が勤務しているみしま野苑一穂の他に山田医院と小規模多機能居宅介護事業所 みしま野苑ひかりがあります。みしま野苑一穂には入所・通所部門があり、山田医院には通所短時間や訪問リハビリ、グループホーム、併設介護療養型老人保健施設があり、OT10名がそれぞれの部署に在籍しています。このように楽山会には様々な部門があり、OTとしての知識を深めることができます。建物は

それぞれ違いますが、施設行事では全6部署が集まり盛大に行事を行っています。

施設行事はあじさいコンサート・運動会・納涼祭・文化祭があります。あじさいコンサートでは舞踊研究所の子ども達がステージでバレエを踊ってくださり、子ども達と利用者様が世代間交流を図れる大切な場となっています。運動会では赤団・白団に分かれ車椅子リレーやシートで物送りなどで勝負を競います。勝ちたいという思いが強く、熱心に練習を重ね本番に臨んでいます。納涼祭では提灯などを飾り三味線や盆踊りなどを鑑賞していただきます。職員も法被や浴衣を着て季節感を感じられる催し物となっています。文化祭は各部門で日頃作った書道や陶芸作品などを展示し、琴の音色を聴きながらお茶菓子をいただきゆっくりと鑑賞します。利用者様の作品には驚くほどの細かい手の込んだ作品もあります。職員も一丸となって行事の準備を行い、利用者様の笑顔を見るとやってよかったと達成感を感じます。

最後に、リレーコラムのバトンを「株式会社ハートフル、ケアタウンとなみ」の林杜拳さんへ渡したいと思います。

## 財務部からのお知らせ

県士会の会費、および入会費の管理業務がスムーズに行えるよう、ご協力をお願いいたします。

①産休、育休中等の方も含め、職場で取りまとめて入金してください。

②職場名、全員の氏名を記入し、新人会員の氏名にはそれがわかるよう記載してください。

平成30年度新入会者

石村 拓也	介護老人保健施設 葵の園・なんと
今井 彩乃	ヴィストキャリア富山中央
岩崎 巧矢	にしの老人保健施設
遠藤 若菜	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター こども療法課
大岡 豊太郎	ヴィストキャリア富山中央
岡澤 幸代	真生会 富山病院
岡本 優里	真生会 富山病院
亀田 千尋	介護老人保健施設 みどり苑
河原 さくら	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 成人療法課
木下 僚介	富山リハビリテーション医療福祉大学校
桐木 裕子	介護老人保健施設 ケアポート庄川
黒坂 幸代	介護老人保健施設 シルバーケア栗山
小林 駿介	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 成人療法課
近藤 咲希	済生会 高岡病院
後藤 有香	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 成人療法課
坂田 嶺	谷野呉山病院
笹井 香那子	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 成人療法課
四十万 拓也	南富山 中川病院
島 有作	にしの老人保健施設
清水 優実	グリーンヒルズ若草病院
菅野 朱音	小矢部大家病院
杉田 安里紗	富山西リハビリテーション病院
高木 美穂	かみいち総合病院
高沢 慎太郎	アルペンリハビリテーション病院
高島 夏海	誠友病院
滝林 奈津美	富山西リハビリテーション病院
谷口 早紀	介護老人保健施設 こぶしの庭
塚田 奈菜	厚生連 高岡病院
中屋 もえ美	谷野呉山病院
長井 一史	あずき会川田病院
橋爪 峻	黒部市民病院
林 克晃	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 成人療法課
伴 大輔	杉野脳神経外科病院
引網 力	済生会 高岡病院
松浦 朱里	富山西総合病院
松島 純香	谷野呉山病院
間所 利成	介護老人保健施設 城端うらら
水嶋 唯乃	桜井病院
山内 宗	アルペンリハビリテーション病院
吉原 直美	谷野呉山病院
渡辺 啓太	魚津緑ヶ丘病院

会員異動等	種類	氏名	旧所属	新(現)所属	備考
	異動	桶谷紗也加	自宅	太田病院	
	異動	大谷 奈央	八尾総合病院	富山西リハビリテーション病院	
	異動	三輪 洋美	老人保健施設 アルカディア氷見	ふるさと病院	
	異動	宮本希詩子	公立 南砺中央病院	公立学校共済組合 北陸中央病院	
	異動	野田 愛	みしま野苑一穂	小矢部大家病院	
	異動	狩野 一裕	三輪病院	老人保健施設 みわ苑	
	異動	作田甚太郎	西能病院	済生会 富山病院	
	異動	保里 衆子	富山県リハビリテーション病院 ・こども支援センター	富山県立中央病院	
	異動	大平 裕子	富山県リハビリテーション病院 ・こども支援センター	富山県立中央病院	
	異動	宮城 由佳	富山協立病院	富山協立病院 通所リハビリテーション	とよたシャキシャキ
	異動	盛崎 成美	介護老人保健施設 みしま野苑一穂	富山協立病院	
	異動	毛利早紀子	自宅	介護老人保健施設 仁泉メディケア	
	異動	米田 彩	矢野神経内科医院 海王デイサービス	自宅	
	異動	高橋 朗	かみいち総合病院	自宅	
	異動	河合 雄介	桜井病院	デイケアステーションかがやき	
	異動	丸池 駿介	杉野脳神経外科病院	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター	
	異動・改姓	杉瀬 望	くろべ福祉会	横田病院	旧姓 稲場
	改姓	川井 藍子		新川老人保健施設	旧姓 浦本
	改姓	山本 己浦		横田病院	旧姓 藤井
改姓	池田 千尋		介護老人保健施設 シルバーケア城南	旧姓 折江	
改姓	鈴木 香織		介護老人保健施設 アルカディア氷見	旧姓 水玉	
改姓	橋本 裕理		厚生連 高岡病院	旧姓 富岳	
改姓	小林 薫		富山赤十字病院	旧姓 油尾	
改姓	北山奈々子		富山城南温泉第二病院	旧姓 村石	
退会	平田 美紀		深川病院		
退会	竹内 華子		自宅		
退会	魚住 綾子		自宅		
退会	金田いずみ		北陸中央病院		
退会	樋口 裕孝		北陸病院		
退会	松崎 衣里		栗山病院		
退会	田本 満		独立行政法人国立病院機構 北陸病院	県外	
退会	宮本恵津子	自宅			
退会	青木 明里	誠友病院			
退会	小坂 美沙	誠友病院			
退会	中村浩司郎	富山県リハビリテーション病院 ・こども支援センター			
退会	長尾 藍子	矢野神経内科病院			
退会	久保 三紀	厚生連高岡病院			

## 発達障害部会の研修会のお知らせ

テーマ：「生活能力や学習の基礎となる力について -ライフステージに沿った関わり-」  
 内容：発達障害児の将来を見据え、それぞれのライフステージに沿った具体的な指導方法  
 講師：鴨下 賢一 氏（静岡県立こども病院 専門作業療法士：福祉用具・特別支援教育）

日程：平成30年7月28日（土） 9：30～15：00（9：00～受付）

場所：富山医療福祉専門学校 参加費：3000円

申込み：URL <https://goo.gl/forms/fVxKL8tSrsS4W8gW2>

もしくは、右のQRコード

問い合わせ先：富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 滝川 千結

Tel:076-438-2233,e-mail:hattatukenshu@gmail.com







# “歩く”

歩きやすさを追求した靴・インソール

# 快適に!

# “聴く”

聞こえの世界が広がる補聴器



(株)富山県義肢製作所 / 富山県補聴器センター

〒930-0042 富山市泉町1-2-16 TEL 076-425-4279 FAX 076-425-4587

E-mail t-gishi@cronos.ocn.ne.jp URL http://www.tpo-morita.com



## 介護保険対応! ベッド・車椅子・レンタル!

車椅子

→ 480円より

ベッド

→ 700円より

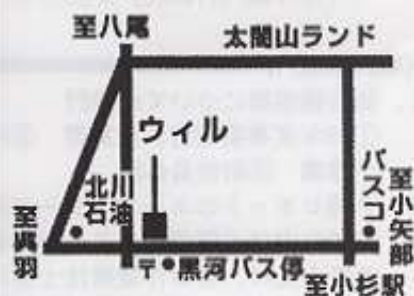
リースナブル



## 株式会社 ウィル

# TEL (0766) 56-7099

# FAX 56-3395



## 平成30年度 第1回理事会

場所：谷野呉山病院

日時：平成30年5月14日(月) 19:00～

参加者：田村、松岡、島津、丸本、橋爪、吉波、  
谷口、森、田邊、松本、齋藤、古澤、  
桐山、高林、小倉

### 〈報告事項〉

1. 富山県社会福祉推進関係者新年度交歓の集い／4月27日－田村会長出席
2. 平成30年度第1回47委員会／4月28日(出)13:00～29日(回)15:30－作田常務理事、吉波理事出席
3. 第18回東海北陸作業療法学会－福井／11月17、18日／テーマ「主体的な生活に向けた作業療法実践」
4. 東海北陸リーダー養成研修会－岐阜県士会担当／12月1、2日／大垣徳洲会病院－次年度以降も継続して開催、参加人数各士会5名以内で参加費一律25,000円とする。
5. 高岡市在宅医療連携協議会委員－光ヶ丘病院長井氏に依頼
6. 生活行為向上マネジメント推進プロジェクト全国推進会議／5月12日－藤井MTDLP研修委員長、山本氏（アルペンリハビリ病院）出席
7. 士会功労表彰－藍口あゆみ氏（ケアサークルこかげ）、高木初代氏（富山協立病院）、指田友子氏（谷野呉山病院）
8. 4月2日／リハビリテーション専門職協議会ねんりんピック富山2018健康フェア企画会議－田村会長、作田常務理事、普及指導部長 谷越氏、飯野氏出席  
11月3～5日／富山市総合体育館－各士会から介護予防に関する評価、体操などの活動体験を提供する。（介護予防に焦点を絞って実施予定）
9. 福祉用具サービス計画書作成研修への作業療法士派遣の依頼（株式会社トーカイシルバー事業部）桐山氏、吉波氏派遣
10. 広報部の原稿依頼の謝礼は図書カードからボールペンに変更。新しい県士会作業療法パンフレットの検討をする。
11. 富山県在宅医療研修会－今年度も年5回予定、日程案を送付する。
12. 訪問リハビリテーション研究会－委員に中岡氏（矢野神経内科医院）が加わる。

### 〈検討事項〉

1. 総会議案書についての検討  
①29年度事業報告、決算書 ②30年度事業計画、予算案 ③新役員体制
2. 介護ロボットのニーズ・シーズ連携協議会設置に向けて厚労省より日本作業療法士協会が委託を受け、各県作業療法士会に協議会を設置していく予定。県士会長が委員長となり、他職

種を募ってメンバーを構成。今年度中に介護現場で望まれるロボットの製作案をまとめる。

3. 県学会富山北地区の見直し「旧8号線を境界にしていたが、有沢線に境界を変更してはどうか」境界付近にある病院施設が複数あり、ある程度均等化も考える必要がある。今年度は、西能病院は北に入れるなど、個別に対応して今後の課題とする。
4. 富山市まちなか総合ケアセンター医療介護連携係より在宅療養支援モデル事業へのOTの派遣依頼－目的は専門職がチームで介入することで在宅生活の限界点を上げることを目指す。6月中に対象者を選定し、7月から専門職を派遣。橋爪理事が窓口となり対応。
5. ねんりんピックのボランティア募集  
一般ボランティアが不足の状況。ボランティア募集のチラシを士会員に配布する。

## 賛助会員名簿

（順不同）

会員名(代表者)	住所
富山医療福祉専門学校 (学校長 長谷川 成樹)	〒936-0023 滑川市柳原149-9 TEL 076-476-0001
学校法人金城学園 金城大学 医療健康学部 (理事長 加藤 真一)	〒924-8511 石川県白山市笠間町1200 TEL 076-276-4400
医療法人社団いづみ会 温泉リハビリテーション いまま泉病院 (理事長 大西 仙泰)	〒939-8075 富山市今泉220 TEL 076-425-1166
株式会社 ウィル (代表取締役 黒田 勉)	〒939-0311 射水市黒河3075 TEL 0766-56-7099
富山リハビリテーション 医療福祉大学校 (校長 青池 浩生)	〒930-0083 富山市総曲輪4丁目4番5号 TEL 076-491-1177
株式会社 富山県義肢製作所 富山県補聴器センター (代表取締役 森田 忠浩)	〒930-0042 富山市泉町1丁目2-16 TEL 076-425-4279

## 編集後記

平成30年度がスタートしました。ゴールデンウィークも矢の如く過ぎ、気付けば「平成」も残り一年を切ってしまいました。今からやって来る出来事やイベントすべてが「平成最後の〇〇」になります。時代の終わりが分かっていると何となく寂しい感じがします。

平成の3分の2以上をOTとして働いてきました。今までのことを振り返ると同時に新しくやって来る時代に期待しながら、良い意味で「変わらず」過ごしていきたいと思う今日この頃です。

(〇)